

2022/3/19 武庫川女子大学教育研究所・押谷由夫主催
第1回 道德教育オンラインフォーラム

自己省察シート活用による道德科の授業力の向上 —MTSS活用による授業力量向上の試み—

HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION  兵庫教育大学

兵庫教育大学教職大学院
鳥取市立末恒小学校

門脇大輔

発表の流れ

I 緒言

II 研究基盤

III 研究仮説

IV MTSSによる自己省察の提案

V 研究対象及び研究方法

VI 結果と考察

VII 結論及び研究の限界と課題

I 緒言

I 緒言

授業力量向上が難しい

- 授業内容の質的課題
- 授業機会が少ない
- 指導方法への不安
- 道徳科授業への苦手意識

I 緒言

【研究の目的】

道徳科授業における教師の自己省察の在り方について検討し、

授業力量向上のための具体的な方策を提案

I 緒言

【研究の手続き】

1. ツールを活用した自己省察の先行研究を概観する
2. 研究仮説を立て、MTSSの開発を行う
※道徳科授業者自己省察シート (Moral class Teacher Self-reflection Sheet : 以下, MTSS)
3. MTSSを活用した自己省察の影響を調査
4. 調査結果に基づいて考察する

II 研究基盤

Ⅱ 研究基盤 自己省察と自己評価について

自己省察

授業後に授業者としての自分を省みて、**よかった点，改善点を見つけ出し，教師として成長し続けるサイクルを確立していく営み**

自己評価

授業力量を捉える視点を例示したものを基に、**自己の授業力量を把握する営み**

自己省察と自己評価の関係

自己評価したものを基に，自身の行為をふりかえり，その後の動機付けまで考えることが**自己省察**である

Ⅱ 研究基盤

先行研究について

【既存のふりかえりツールの課題】

①自己評価にとどまる可能性

②方法論に陥りやすい可能性

③道徳科の特質にそぐわないものが多い

Ⅲ 研究仮説

Ⅲ 研究仮説

○ループリックの有効性

【研究仮説】

「道徳科の特質に合わせたループリックによる自己評価とその結果に基づき自己の強みと改善点を記述できる構成のツールを開発し、自己省察を行うことで、道徳科における教師の授業力量が向上するであろう」

IV MTSSによる自己省察の提案

※道徳科授業者自己省察シート

(Moral class Teacher Self-reflection Sheet:以下, MTSS)

IV MTSSによる自己省察の提案

MTSS作成の手順 岸川ら(2019)

- ① **リストアップ**: 授業力量の高い教師像についてリストアップする。
- ② **グループ化と見出し付け**: リストアップしたものをグループに分け、見出しを付ける。
- ③ **小見出し付け**: 各グループを細分化し、小見出しを付ける。
- ④ **チェック項目の検討**: 評価の段階に応じた具体的な状態の記述を作成する。

IV MTSSによる自己省察の提案

道 徳 的 価 値 観	評価	内容項目に対する深い理解	評価	物事を多面的・多角的に見る	評価	ねらいの明確性	自己評価達成率(%)	
	3	2に加え、該当内容項目に対する学級の実態を理解している。	3	学習内容を5つ以上述べることができる。	3	2に加え、理解することについて具体的に記されている。		0
	2	学年段階に応じた指導の要点を理解している。	2	学習内容を3つ以上述べることができる。	2	学習活動、理解すること、育てたい道徳性の諸様相が含まれている。		
	1	2を満たしていない。	1	2を満たしていない。	1	2を満たしていない。		
評価選択		評価選択		評価選択				

IV MTSSによる自己省察の提案

子ども理解	評価	子どもの発言に対する理解	評価	発言を共感的に受けとめる	評価	子どもを見る	自己評価達成率(%)	
	3	2に加え、授業中に理解したことを本人に確認している。	3	2に加え、全体に対しても共感的に受けとめたことを共有している。	3	2に加え、読み取ったことを授業展開に組み込んでいる。		0
	2	中心価値と関連価値の関係から子どもの発言を理解している。	2	本人に対し、共感的に受けとめる言葉を使っている。	2	子どもの微表情を読み取っている。		
	1	2を満たしていない。	1	2を満たしていない。	1	2を満たしていない。		
評価選択		評価選択		評価選択				

IV MTSSによる自己省察の提案

身 体 性	評価	表情	評価	立ち位置	評価	ジェスチャー	自己評価達成率(%)
	3	2に加え, 感情豊かな表情を意識している。	3	2に加え, 全体と個を見とることを意識している。	3	2に加え, ジェスチャーを見た子どもの反応を確認している。	0
	2	授業中, 笑顔を意識している。	2	授業場面によって子どもとの距離を意識している。	2	ジェスチャーによって, 言語伝達のサポートをしている。	
	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない	
	評価選択		評価選択		評価選択		

IV MTSSによる自己省察の提案

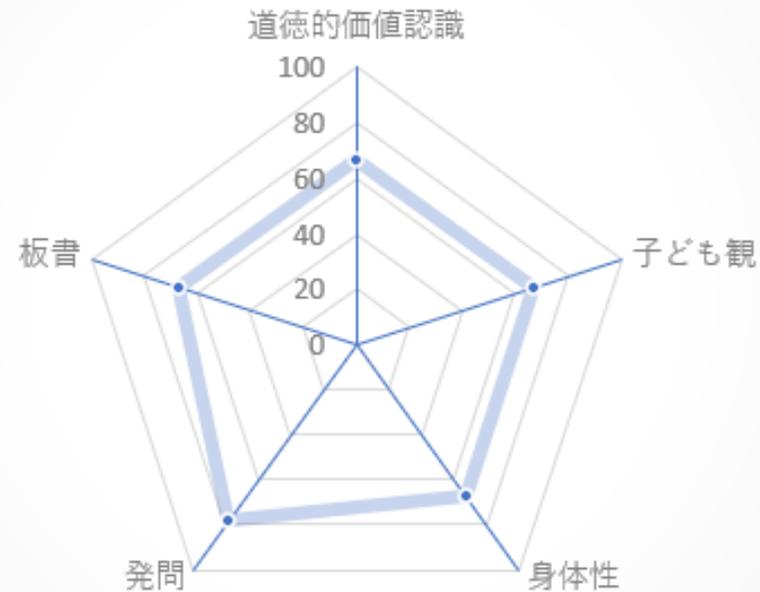
発問	評価	子どもの思考の文脈に沿う	評価	問い返し	評価	つぶやきを拾う	自己評価達成率(%)	
	3	2に加え、展開を調整している。	3	2の項目全てを満たしている。	3	2に加え、個のつぶやきを全体に広めている。		0
	2	子どもの思考の文脈に沿い、発問を調整している。	2	問い返しによって①共有化②顕在化のどちらか一項目を満たしている。	2	つぶやきを1回以上拾っている。		
	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない		
評価選択		評価選択		評価選択				

IV MTSSによる自己省察の提案

板書	評価	色・形・矢印等	評価	まとめる	評価	表記	自己評価達成率(%)	
	3	2に加え、実際にそれを運用できている。	3	2に加え、教師の言い換えになっていないか子どもに確認している。	3	2に加え、教師の言い換えになっていないか子どもに確認している。		0
	2	色・形・矢印等のきまりを決めている	2	複数の子どもの考えをまとめて板書している。	2	子どもの考えを端的に板書できている。		
	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない	1	2を満たしていない		
評価選択		評価選択		評価選択				

IV MTSSによる自己省察の提案

自己評価達成率



【よかった点】

- ・本時はつぶやきの多い授業だったため、ねらいに迫るつぶやきを拾うことができた。その児童は、その後いつもより意欲的に学習に臨んでいた気がする。自分の考えが伝わったことや認められたことに対する自信や安心が見られた。発表が苦手な児童や自信がない児童が学級全体に考えを広げるためのくふうを考えていきたい。

【改善点（もっとこうできた）】

- ・ねらいがぶれてしまった。
- ・児童の実態と教師の実態把握が合ってなかった。教師が予想していた以上に、児童は自分たちの良さについて考えられていた。

V 研究対象及び研究方法

V 研究対象及び研究方法

1 研究対象

(1) 研究実施校，学年，担任

A 県内 B 小学校

第5学年 C 組（男子12名，女子15名，計27名）

担任 D 教諭（教職3年目）

第3学年 E 組（男子21名，女子14名，計35名）

担任 F 教諭（教職9年目）

第2学年 G 組（男子18名，女子9名，計27名）

担任 H 教諭（教職11年目）

対象教諭は，教職経験年数1～3年目，4～10年目，10年目以上といった3タイプからそれぞれ1名ずつ選定した。

V 研究対象及び研究方法

2 研究方法

MTSS活用による授業力量の変化を調査

○SCD (Single Case Design) 反転デザイン

○介入は「助言を伴うMTSSを活用した自己省察の導入」

測定尺度

①子どもの授業内での総発話数

②ふり返りにねらいに係る内容を書いている人数の割合

V 研究対象及び研究方法

2 研究方法

MTSS活用による授業力量の変化に伴う
対象教諭の意識変容を調査

○MTSS内自由記述における改善点の観察

○半構造化インタビュー（全4回）

※得られたデータは、SCATを用い分析

半構造化インタビュー

1～3回目（第2期）

質問：うまくいったなと思った場面を教えてくださいませんか

4回目（第3期終了後）

質問①：自己省察シート活用前・後で、授業に関わることでご自身に何か変化はありましたか

質問②：自分の強み・改善点は発見できましたか

質問③：自己省察シート活用前・後で、授業中の子どもに変化はありましたか

質問④：自己省察シートは、今後も活用できそうですか

VI 結果と考察

【子どもの総発話数】

介入効果量測定

Percentage of Non-overlapping Data(PND)

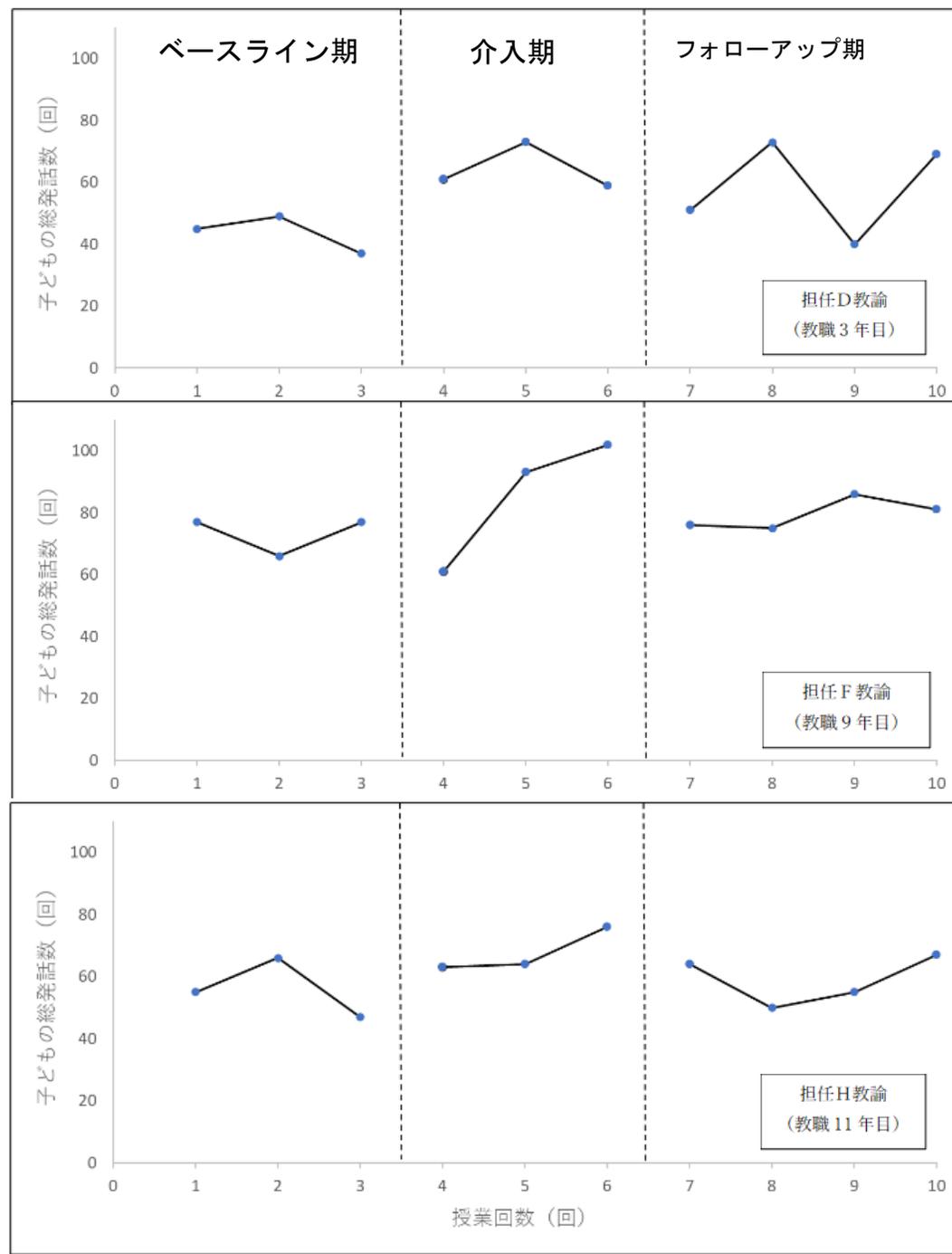
※0.8以上が非常に有効

D教諭（教職 3年目） **0.85**

F教諭（教職 9年目） 0.57

H教諭（教職 11年目） 0.28

D教諭のみ介入が非常に有効



【ねらいに係るふり返りの割合】

介入効果量測定

Percentage of Non-overlapping Data(PND)

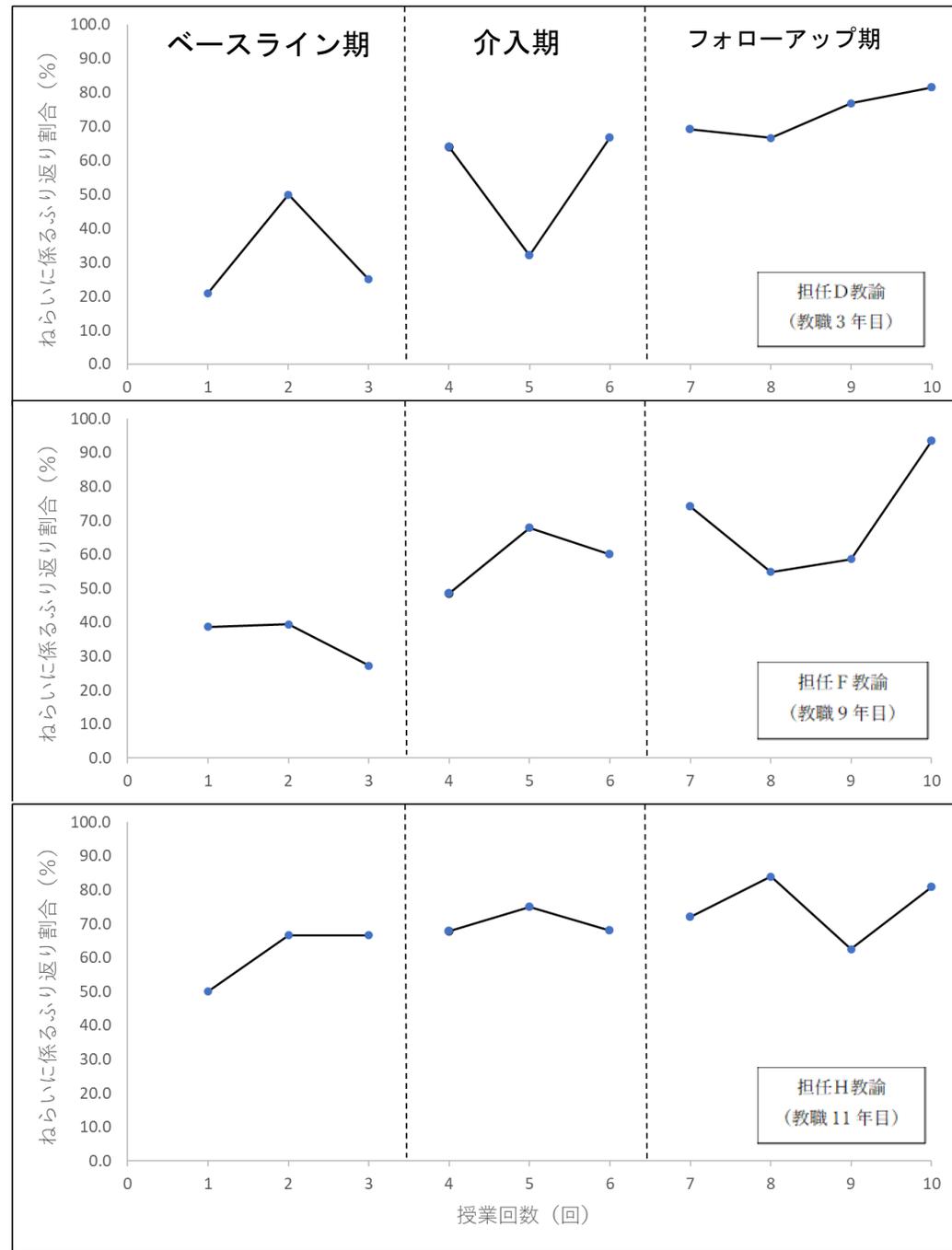
※0.8以上が非常に有効

D教諭（教職 3年目） **0.85**

F教諭（教職 9年目） **1.0**

H教諭（教職 11年目） **0.85**

3名とも介入が非常に有効



詳しくは、
資料8-9頁を参照

担任D教諭(教職3年目) MTSS自由記述

代表的なテキストデータ(改善点)

基礎的知識	【1回目】(介入期) ○道徳的価値についての理解
方法論	【2回目】(介入期) ○オープンな発問を心掛けたい
方法論	【3回目】(介入期) ○板書の色分け
板書の意図	【4回目】(介入期) ○今回の教材は、登場人物の性格まで板書に残す必要がない
道徳的価値	【5回目】(フォローアップ期) ○内容項目の理解が乏しく
子どもの思考	【6回目】(フォローアップ期) ○子どもの考えをくみ取ることができない場面
子どもの思考	【7回目】(フォローアップ期) ○子どもの発言をうまく板書することができなかった
子どもの思考	【8回目】(フォローアップ期) ○子どもの考えをまとめて板書することができなかった。

【MTSS内自由記述】

自由記述の変容について考察（全8回分）

○改善点の内容が**子どもの思考の文脈**を考えるようになったこと

○子どもの文脈でのふり返りは、授業者に**本質的な気付き**をもたらすこと

(介入期)

- MTSSを活用した自己省察が教師の意識を前向きにしていく傾向にあること

(フォローアップ期)

MTSSを活用した自己省察は

- 授業構想，授業スキルや情意面に対して好影響を与えること
- 改善点を次への希望として捉えること
- 子どもの姿から実感を伴う自己省察を行うことで，本質的な気付きをうむこと
- 継続して活用可能であること

VII 結論及び研究の限界と課題

VII 結論及び研究の限界と課題

1 結論

MTSS活用による授業力量向上の試みは有効であるかについて、調査結果に基づいて考察し、次の4点が導出された。

①授業力量向上につながること

②気付きの質を向上させること

③前向きな自己省察となること

④継続可能性が見られること

VII まとめと総合考察

2 研究の限界と課題

今後の課題は次の2点である。

- ①最初から誰でも活用できるように，説明書を添付する等の工夫が望まれること
- ②研究の妥当性を高めるために，年間を通じた長期データを取っていく必要があること

【参考・引用文献等】

- 文部科学省道徳教育の充実に関する懇談会『今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）』，2013年。
- 文部科学省『平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査』，2019年。
- 押谷由夫・木崎ちのぶ・谷山優子・矢作信行・齋藤道子・小山久子・醍醐身奈「道徳教育全国調査の実（2019.3）と結果分析（1）—統計的分析—」『日本道徳教育学会第94回（令和元年度秋季）大会 自由研究発表資料』，2019年，13頁。
- 木原俊行「授業力量形成の要件」『解放教育』第34巻11号，明治図書出版，2004年，9-14頁。
- 梅津正美「特色GPプログラム『教育実践の省察力をもつ教員の養成』の理論と方法」『教育実践の省察力をもつ教員の養成』協同出版，2010年，14-25頁。
- 大塚みさ・三田薫・白尾美佳「自己省察を促すための自己評価ルーブリック導入の試み」『実践女子大学短期大学部紀要』第39号，2018年，3頁。
- 南彩子「ソーシャルワークにおける省察および省察学習について」『天理大学社会福祉学研究室紀要』，2007年，10頁。
- 群馬県教育委員会事務局吾妻教育事務所『「授業づくり！押さえてほしいポイント」チェックシート』，2011年。
- 千葉県教育庁南房総教育事務所『令和版授業改善のためのセルフチェックシート』，2020年。
- 福島県教育委員会『授業スタンダードチェックシート』，2017年。
- 島根県教育委員会『授業チェックリスト』，2017年。
- 神奈川県逗子市教育委員会『自己チェックリスト』，2015年。
- 田沼茂紀「『特別の教科 道徳』が克服すべき課題とその解決方策の検討—道徳教育忌避感情および軽視傾向改善を中心に—」『道徳と教育』第333号，2015年，151頁。
- 埼玉県北部教育事務所『道徳科授業の自己点検（小学校）』，2019年。
- 山木朝彦・山田芳明「教科・領域教育におけるコア科目の授業実践：図画工作・美術科」『教育実践の省察力をもつ教員の養成』協同出版，2010年，123-144頁。
- 深井裕二・河合洋明・仲野修「学士力分析システムにおけるスキル自己評価ルーブリックの適用」『北海道科学大学研究紀要』43,2017年，13-20頁。
- 岸川公紀・梶田鈴子『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第51号，2019年，199-208頁。
- 石井拓「シングルケースデザインの概要」『行動分析学研究』29，2015年，190-191頁。
- 大谷尚「4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案--着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要教育科学』54(2)，2007年，27-44頁。

ご清聴ありがとうございました

kanamechiaki2@gmail.com

門脇大輔



HYOGO UNIVERSITY OF
TEACHER EDUCATION